

## 【戸塚区】令和元年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年 6 月 3 日 15 時 00 分 ～ 16 時 25 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	<p>【座 長】鈴木太郎議員</p> <p>【議 員：5 名】中島光徳議員、岩崎ひろし議員、山浦英太議員、 伏見幸枝議員、坂本勝司議員</p> <p>【戸塚区：23 名】吉泉英紀区長、鈴木裕子副区長、里見正宏福祉保健センター長、内田沢子福祉保健センター担当部長、中島高志土木事務所長、佐藤重義戸塚消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	令和元年度個性ある区づくり推進費戸塚区予算執行計画等
発言の 要 旨	<p>山浦議員：5 ページ『『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業』で、総務局や建築局の事業で、家具転倒防止対策補助、防災ベッド補助、耐震シェルター補助などがあるが、区では防災・減災啓発としてどのように周知をしているか。</p> <p>卯都木総務課長：区連会などを通じ、事業の印刷物をご覧いただく形でお知らせしている。</p> <p>山浦議員：4 月から始まった住宅除却補助事業は利用率がほぼ横ばいで、局の担当者が現場に出向くような新しい取組も必要だと考えている。</p> <p>卯都木総務課長：必ずしも全てに局の担当者が来ることにはならないが、局とも連携しながら、説明会や拠点の訓練などを活用し、区民の皆様にもこのような取組を知っていただきたいと考えている。</p>

山浦議員：13 ページ「区民に身近な広聴・相談事業」で、神奈川県が管轄しているような事業への陳情・要望については、どのような対応をし、また記録や統計をとっているのか。

米満区政推進課長：戸塚区所管や横浜市所管以外のものでも、内容に応じ関係機関に送って回答を求め、区民の皆様にお戻りするなど、適宜対応している。対応方法も含め記録を残しているので、統計的な把握もできると思う。

岩崎議員：5 ページ「『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業」の啓発活動は、今年度どういう点を強化していくのか。また工夫した点はあるか。

卯都木総務課長：例年行っているとつか減災フェアで、昨年度は親子向けのアトラクションを加えたことにより多くの親子が参加した。今後も、内容を工夫することでターゲットにしっかりと届くよう取り組んでいきたい。また、区内に土砂災害警戒情報が発表されたときの即時勧告対象区域には、昨年度からポスティングで緊急時情報伝達システムへの登録と活用をお願いしているが、今年度は職員が一軒一軒回って説明を行い、不在の場合も何度か訪問するなど丁寧に対応することとしている。

岩崎議員：境川水系の被害想定の見直しは、今年度どういう見直しになるのか伺いたい。

卯都木総務課長：境川水系の洪水浸水想定区域の見直しは県が行っている。今年度は準用河川などを含めたハザードマップを横浜市で作成していく予定になっているが、年度後半になるのではないか。区の風水害編の防災計画を持っているのは鶴見区と中区の2区だけなので、ハザードマップができたときにそれを区の計画にどう生かしていくのか、2区を参考に考えていきたい。

岩崎議員：14 ページ区局連携促進事業に関連して、「住み続けたいまち・みちづくり推進事業」では戸塚駅周辺が対象になっており、道路局などの所管局と連携しているが、今年度は区としてどういう位置付けで行っていくのかを明確にすべきではないか。

米満区政推進課長：戸塚駅周辺地区については、道路局と区政推進課、土木事務所が連携して「住み続けたいまち・みちづくり推進事業」を行っている。今年2月に策定したプランについては区役所と道路局の連名でまとめた形になっており、進捗の管理も道路局と区役所が一体となって進めていく位置付けである。予算区分は道路局の事業であるが、局と区役所が一体となって実施していくものであり、区役所の中でも重要性の高い事業の一つとして取り組んでいる。

岩崎議員：戸塚駅東口の改修はさまざまな工事が順次続いて改善されてきているが、工事の全体像が不明で、今何をやっているのかがわかりにくい。改修の全体像を見せる工夫が必要だと思うがどうか。

天野土木事務所副所長：個々の工事については看板などを決められたとおりに掲示しているが、全体についての説明が不足している点もあるので、工事業者とも調整しながら、皆様にわかりやすい工事を進めていきたい。

岩崎議員：先日の統一地方選挙でも、選挙公報が配布されなかったという声を全市的に聞いている。有権者の投票行動を決めるためにも一番重要なものなので、できる限り改善をお願いしたい。

卯都木総務課長：選挙公報は投票日の2日前までに委託業者が全世帯にお配りしているが、届いていないご家庭もあったと思われ申し訳なく思っている。ご指摘については、市選管と情報共有するとともに、委託業者にも念押ししていく。また万が一、届いていないという連絡があった場合に、すぐにお届けできる体制を整えてまいりたい。

伏見議員：5 ページ「『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業」で、地域防災アドバイザーというのはどのような方か。

卯都木総務課長：「要援護者支援」、「女性への視点や子どもへの配慮」、「地域防災拠点運営の支援」、「マニュアルの作成支援や訓練などの企画」の4分野について、それぞれ専門のNPOや公益財団法人の専門家を想定している。

伏見議員：8 ページ「子育て応援事業」で、3月にオープンしたとつとの芽サテライトの利用状況はどうなっているか。また、プレママやプレパパの利用はどうか。

飯田こども家庭支援課長：4月末現在で333名の登録があり、1日平均118名にご利用いただいている。プレママ・プレパパの利用はまだそれほどではないが、10月以降、プレママ・プレパパ向けの両親教室の実施を考えている。

伏見議員：サテライト利用者の地域はどうか。

飯田こども家庭支援課長：戸塚町2割、上倉田町2割、矢部町1割というように、近隣の利用が多くなっている。

伏見議員：これから育休中の方の利用も増えると思うが、子育て支援拠点と地域の結びつきに積極的に取り組む必要があるのではないか。

9 ページ「とつかの子育て応援ルーム『とことこ』運営事業」で、ベビーカーのレンタルの利用者が、どちらまで利用しているかについて把握しているか。またアンケートをとったりしているのか。

飯田こども家庭支援課長：昨年末に利用者状況を伺ったところ、駅周辺でトツカーナ方面や、区役所に寄られる方が多く、近隣の商業施設までの利用が多いと把握している。

伏見議員：11 ページ「美化推進事業」で、昨年から行っている生ごみ処理機のモニター事業は今年も新しく募集していくのか。

澤田資源化推進担当課長：今年度も参加者について新規に募集していく。

坂本議員：4 ページ「戸塚区民まつり事業」の柏尾川周辺の環境整備だが、この3～4月は桜まつりを含めた人出はどうだったか。

岩崎地域振興課長：今年は開花の期間が長く、非常に多くの人出があった。

坂本議員：周辺の環境整備ということで、ぼんぼりの点灯は好評だったが、トイレについての要望も多く、環境的な問題からも今後の検討課題にしてほしい。

5 ページ「『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業」の地下施設浸水対策訓練に関連し、止水板が設置されているが、逆に水を止めた場合に冠水しやすい場所をドライバーに注意喚起することも必要だと考えるがどうか。

卯都木総務課長：戸塚駅周辺混乱防止対策連絡協議会の中で関係団体と連携し訓練を行っているが、近隣を通行する自動車のドライバーの視点にも立って、協議会の場で交通事業者などから意見をいただいていた。

坂本議員：4月から災害救助実施市に指定され、地域防災拠点の管理・運用がより一層求められるが、地域防災拠点でもう一步踏み込んだ訓練などは検討しているか。

卯都木総務課長：現時点で、地域防災拠点の訓練を変えていくことは想定していないが、防災アドバイザーの制度も活用しながら、運営委員会の皆様と取組を進めてまいりたい。

坂本議員：6 ページ「食と暮らしの安全・安心応援事業」で、ハチ対策ではどのくらいの相談件数があるのか。また、ハチの活動が活発化していくこの時期に、自治会町内会を始め、子どもたちに対する危険の周知として、学校などとも連携をとっているのか。

市川生活衛生課長：平成 30 年度の実績で 535 件。現時点で、子どもを対象とした具体的な対策は進めていないが、ご意見を踏まえて考えていきたい。

坂本議員：11 ページ「旧東海道魅力アップ推進事業」で、旧東海道の案内板の整備はしっかり進めてほしいが、舞岡駅から舞岡公園に向かう案内板もかなり老朽化している。管理的な部分も含め、既存の案内板の見直しなども、しっかりと行ってほしい。

米満区政推進課長：基本的にはその設置者の対応となるが、その場にふさわしい実施の方法や内容を考えていくことが必要と考えている。

坂本議員：旧東海道の案内板はどのようなものになるのか。

米満区政推進課長：区民団体の皆様と一緒に検討を進めている。例えば品濃一里塚の更新や、海道橋から赤関橋にかけての左富士のポイントなど、まち歩きイベントで口頭で伝えられているようなことを案内できるサインなど、いろいろな視点でアイデアが出ている。

中島議員：5 ページ「『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業」について、昨年マンション防災の講座は大変好評だったと聞いているが、地域防災拠点でも取り上げてほしい。マンション住民が地域防災拠点に避難することは実質的に困難であることが予想されるため、拠点とマンションの連携を想定した訓練をモデル的にでも実施してほしい。

卯都木総務課長：マンション向け防災講座は、今年は6月16日に基礎編、10月に応用編を開催する。モデル訓練は、集合住宅と地域防災拠点の両方にうまくつなげないと難しいが、マンション向け防災講座などの機会を捉え、次のステップとして連携した訓練ができるかどうか探っていきたい。

中島議員：関係機関との連携強化ということで、混乱防止対策訓練というのは非常に大事だと思うが、関係機関として商店街も想定されているのか。

卯都木総務課長：商店街連合会も災害対策連絡会議のメンバーに入っている。

中島議員：平日の昼間は仕事でいない方も多いので、商店街の防災意識が高まると、自助・共助の中で大きな担い手になっていただけたらと思う。

12 ページ「とつか環境未来エコライフ事業」のSDGsの普及啓発について、横浜市にSDGsデザインセンターができたことも踏まえ、区内企業や、横浜市と同じくSDGs未来都市に選定された下川町との連携を具体化していくべきではないか。

米満区政推進課長：区内企業とデザインセンターをつなぐとともに、これまで下川町との交流を進めてきた戸塚区として、横浜市と下川町との交流も深まっていくようにしていきたい。

中島議員：区内企業への啓発を進め、SDGsの取組に関して戸塚区が18区の中で一番になればいいと思うが、区長はどう考えるか。

吉泉区長：SDGsに関しては、戸塚区と下川町はこれまで数々の実績を築いている。SDGsデザインセンターができたこの契機をしっかりと捉え、企業の皆様や子どもたちの力も借りて、取り組んでいきたい。

中島議員：SDGsはまだ理解が深まっていないので、戸塚区職員全員がSDGsを理解し、説明できるようになってほしい。

10ページ「地域文化振興事業」で新規で音祭り応援事業30万円が計上されているが、代わりに戸塚っ子いきいきアートフェスティバルが同額減額されているのか内訳を知りたい。

岩崎地域振興課長：戸塚っ子いきいきアートフェスティバルはこれまでもずっと100万円で、3年ごとの文化事業に毎年30万円計上している。昨年度はDance Dance Dance関連事業に30万円、今年度は音祭り応援事業に30万円計上している。

中島議員：戸塚っ子いきいきアートフェスティバルでは運営スタッフが大変だという話も聞いているが、子どもたちや親御さんの気持ちも踏まえ、盛り上げてほしい。

伏見議員：放課後児童クラブの耐震基準適合の取組は重要な課題だが、現時点で区内の基準未適合の放課後児童クラブの適合見込みはどうか伺いたい。

金森学校連携・こども担当課長：戸塚区では日限山学童保育杉の子クラブが耐震基準を満たしていないので、移転に向けた取組を進めている。

鈴木座長：5ページ「『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業」の各駅の混乱防止対策訓練では、事業者が連携して帰宅困難者をどの受入施設に振り分け、実際にそこに避難できるかを検証することが重要であるが、そういう訓練になっているのか。また、マンション防災については、全てのマンション住民を地域防災拠点を受け入れるのは実際難しいので、区の防災計画で物資配布と情報共有のみとするなど、拠点ごとにマンションの位置付けを検討する必要があるのではないか。そうやって、マンション防災の取組も実際の話に踏み込んでいけると考える。

	<p>卯都木総務課長：混乱防止対策訓練は、より現実に即した訓練となるように工夫してまいりたい。また、マンション防災のあり方についても、検討していきたい。</p> <p>鈴木座長：先月の大津での園児死傷事故を受けて、道路局でも緊急点検を行うということだが、一番心配しているのは保育園関係者やその保護者ではないか。保育園の通園や散歩での危険箇所を、関係者からヒアリングする必要もあると考えるがどうか。</p> <p>天野土木事務所副所長：戸塚区内でも 13 か所の緊急点検を行うが、加えて、地域、保育園、幼稚園、スクールゾーン対策協議会などから要望のあった箇所の点検も行う予定である。保育園や幼稚園はスクールゾーン対策協議会のような機関がないので、これまでいただいた広聴での意見も参考に対応していきたい。</p>
<p>備 考</p>	